

令和6(2024)年度 事業報告書

令和 7(2025)年 5 月

学校法人メイ・ウシヤマ学園

I. 法人の概要

1. メイ・ウシヤマ学園の概要

本年創立 100 周年を迎えたメイ・ウシヤマ学園は、ハリウッドグループの創設者でハリウッド映画俳優でもあった牛山清人が最先端のハリウッド映画界の美容の技術と知識を習得して米国で美容室を起業後、これを日本に導入すべく大正 14(1925)年に帰国し、美容室、美容学校、化粧品等のビジネスを創業したことに始まる。清人の妻メイ牛山は、美容家、またハリウッド美容専門学校の校長として、「日本の女性をすべて美しくする」という使命感をもち、美容における「美」を単なる外面的な美しさではなく健康や精神の内面美を含む総合美（トータルビューティ）として追求し、美容師の養成にとどまらず美容業界の指導者として業界のprestige向上につとめた。このような創業者夫妻のトータルビューティの追求という高い理想を継承しつつ、時代の要請に応じた人材の輩出に努めている。

本学園の建学の精神は、「人を美しく幸福に導く一流の美の天使を育成し、ビューティビジネスの発展に貢献することによって美の楽園を築く」ことである。またハリウッド（かつて聖林の字をあてた）に関わる人々の理念として「愛聖会の精神」を掲げている。

愛聖会の精神

- 一、私達は天地一切のものと和解いたしましょう。
- 一、天地万物に感謝し父母に感謝いたしましょう。
- 一、汝の信仰によって汝の信ずる如くなれと云う神の言葉を守りましょう。
- 一、自らの力に自信をもち 人を美しく幸福に導く使命と誇りをもち自らの人格を高めましょう。
- 一、完全円満の生命の実相をさと 愛をそゝぎ信念をうちこみ 人の為に幸福を祈願して勇敢に進みましよう。
- 一、祈ってつくるわが技術には魂が生まれるのです。これを用いる人に美と倖を贈り之を扱う人々に必ず繁栄を与えましょう。

2. 学園の沿革

大正 14 (1925) 年	2 月	東京神田三崎町に、美容師養成施設としてハリウッド美容講習所を設立。美容室開店及び化粧品の製造を開始する。
大正 14 (1925) 年		パーマメント技術と機械を導入。
昭和 2 (1927) 年		銀座 7 丁目にハリウッド美容室開店。
昭和 6 (1931) 年		東銀座に美容研究室・化粧品製造作業所を開設。
昭和 25 (1950) 年	4 月	東京麻布霞町に、ハリウッド高等美容学校を開校。
昭和 25 (1950) 年	11 月	ハリウッド高等美容学校、厚生大臣指定美容師養成施設に認定。
昭和 55 (1980) 年	5 月	専修学校の設置認可となり、ハリウッド美容専門学校に校名変更。
昭和 59 (1984) 年	3 月	学校法人メイ・ウシヤマ学園を設立。
平成 8 (1996) 年	3 月	カネボウ総合美容学校を合併し、定員増加。
平成 10 (1998) 年	4 月	美容師法改正により、2 年制となり定員を増加。

平成 15（2003）年	4 月	六本木ヒルズ再開発事業により、ハリウッドビューティプラザ落成。
平成 18（2006）年	4 月	ハリウッド美容専門学校に高度専門科（4 年制）を設置。
平成 19（2007）年	12 月	ハリウッド大学院大学設置認可。
平成 20（2008）年	4 月	ハリウッド大学院大学開学。 ・生涯キャリア開発センター 開設。 ・ビューティビジネス研究所 開設。
平成 21（2009）年	4 月	ハリウッド美容専門学校からハリウッドビューティ専門学校に名称変更。
平成 22（2010）年	10 月	ハリウッド大学院大学にて 10 月入学を開始。
平成 23（2011）年	3 月	ハリウッドビューティ専門学校が、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を受信し「評価研究機構の基準を満たしている」と認定された。
平成 25（2013）年	3 月	ハリウッド大学院大学が、分野別認証評価を受審し、ビューティビジネス評価機構より、「機構の基準を満たしている」と認定された。
平成 26（2014）年	3 月	ハリウッドビューティ専門学校の高度専門科、美容専門科、トータルビューティ専門科が「職業実践専門課程」に認定された。
平成 26（2014）年	4 月	ビューティビジネス研究所をサービスビジネス総合研究所に改組。
平成 27（2015）年	3 月	ハリウッド大学院大学が、機関別認証評価を受審し、日本高等教育評価機構より、「機構の定める評価基準に適合していると認定」された。
平成 29（2017）年	4 月	ハリウッドビューティ専門学校からハリウッド美容専門学校に名称変更。
平成 30（2018）年	3 月	ハリウッド大学院大学が、分野別認証評価を受審し、専門職高等教育質保証機構より、「機構の基準を満たしている」と認定された。
令和 4（2022）年	3 月	ハリウッド大学院大学が、機関別認証評価を受審し、日本高等教育評価機構より、「機構の定める評価基準に適合していると認定」された。
令和 5（2023）年	3 月	ハリウッド大学院大学が、分野別認証評価を受審し、専門職高等教育質保証機構より、「機構の基準を満たしている」と認定された。
令和 7（2025）年	3 月	ハリウッド大学院大学に「中小企業診断士登録養成課程」を開設。

3. 設置する学校等

(1) 設置学校（令和7年3月31日現在）

ハリウッド大学院大学

所在地 東京都港区六本木 6－4－1

学長 山中 祥弘

教育の目的 ビューティビジネスに関する学理および応用を教授研究し、高度な専門職としての資質と専門的能力を培い、広く国際的視野に立って、社会の発展に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。

ハリウッド美容専門学校

所在地 東京都港区六本木 6－4－1

校長 ジェニー牛山

教育の目的 教育基本法及び学校教育法に基づき、美容とファッションに関する知識・技術を授け、人格を高め美容界並びにファッション界に有為なる人材を育成することを目的とする。

(2) 入学定員・収容定員・現員数

ハリウッド大学院大学 ビューティビジネス研究科			
入学定員	収容定員	現員※	収容定員充足率
40 人	80 人	67 人	83.7%

※令和6年5月1日現在。

ハリウッド美容専門学校			
入学定員	収容定員	現員※	収容定員充足率※
680 人	1,240 人	315 人	25.4%

※令和6年5月1日現在。

4. 役員・評議員・教職員の概要（令和7年3月31日現在）

(1) 役員（令和7年3月31日）

理事(7人)		
理事長	山中 祥弘	寄附行為第7条第1項第1号（学長）
理事	渡辺 栄紀	寄附行為第7条第1項第2号（評議員会選任）
理事	山中 ジェニー	寄附行為第7条第1項第2号（評議員会選任）
理事	吉野 清一	寄附行為第7条第1項第2号（評議員会選任）
理事	寺本 義也	寄附行為第7条第1項第3号（学識経験者）
理事	川島 鋼太郎	寄附行為第7条第1項第3号（学識経験者）
理事	岡野 元	寄附行為第7条第1項第3号（学識経験者）

監事(2人)		
監事	酒井 伸夫	寄附行為第8条第1項
監事	伊東 昭彦	寄附行為第8条第1項

(2) 評議員（令和7年3月31日）

評議員(14人)		
評議員	渡辺 栄紀	寄附行為第25条第1項第1号（法人の職員）
評議員	相原 修	寄附行為第25条第1項第1号（法人の職員）
評議員	山中 一弘	寄附行為第25条第1項第1号（法人の職員）
評議員	清家 彰敏	寄附行為第25条第1項第1号（法人の職員）
評議員	欠員	寄附行為第25条第1項第1号（法人の職員）
評議員	山中 ジェニー	寄附行為第25条第1項第2号（卒業生）

II. 事業の概要

1. 当年度の主な事業の概要

令和6年度は世界的な選挙イヤーであった。多くの国で政権交代があり、政権を維持した国でも野党が伸長するなど、各国で政情が混とんとしている。G7においても我が国をはじめ5か国で政権が交代し、とくにアメリカのトランプ政権の誕生は世界情勢に大きな影響を与えている。隣国ロシアとウクライナの戦争は膠着し、中東情勢も予断を許さない。

我が国は少子化の急伸、物価高騰、人件費の上昇といった経済状況にあり、他方で繁華街は外国人観光客であふれるなど来日外国人が急増している。

このような中、学校法人メイ・ウシヤマ学園（以下、「本学園」という。）も当年度より専門学校の授業料値上げを行うとともに、物価高の影響を最小限に抑えるべく合理化を進めている。次年度に向けてハリウッド美容専門学校（以下、「専門学校」という。）、ハリウッド大学院大学（以下、「大学」という。）ともに学生募集に努め、多くの留学生が入学することとなった。

なお令和6年度は新年明けの2月11日がハリウッドグループ創立の100年目にあたり、「学校法人メイ・ウシヤマ学園中期計画（令和5年度～令和9年度）5カ年」においては2年目にあたる。本中期計画では①新コースの開設②収容定員増③校名変更④100周年事業等を挙げた。当年度は様々な案をとりまとめ、準備を進め、必要な申請等をおこなった。私立学校法の大幅な改正にともない、学園は必要な寄附行為変更手続きをおこなった。大学では中小企業診断士養成課程を申請して3月に開講した。専門学校は校名変更し、令和7年度よりハリウッド美容専門大学校と改称する。

(1) ハリウッド大学院大学

① 教育の質の保証

大学は、令和4年度にビューティビジネス分野の専門職大学院認証評価を受審し、令和5年3月に一般社団法人専門職高等教育質保証機構より「機構の基準を満たしている」と認定された。当年度は、日常的な自己点検・評価を進めるとともに、令和9年度の分野別認証評価の受審に向けての準備を進めた。

② 教育・研究力の向上

当年度においても、教員の教育・研究力の向上のため、FD・SD研修を教授会等の後におこない、知見の共有及び教授方法の研さんに努めた。教員が持ち回りで研究発表をおこなったほか、研究倫理研修や、科研費についての勉強会をおこなった。また、清里研修旅行を実施し、教員は研究発表をおこなった。

また、文部科学省の委託研究事業に、教職員が外部委員等で参加した。

③ キャリア開発・支援

社会人のリカレント教育の一環として、「専門職教育支援士」履修証明プログラムを当年度

も開設した。

また、ビューティビジネスに強い中小企業診断士を増やすため、中小企業診断士養成課程を設置した。

④ 地域連携

当年度も外部に対して積極的に学園の施設を開放し、コンサート等多様なイベントに活用された。

大学では、地元の港区と連携し、みなと市民講座を開くとともに、その集大成として「MINATO シニアコレクション 美しく輝いて生きる」を実施し、好評を得た。さらに次年度も連携を強化して公開講座・イベントを行うこととした。

⑤ 国際化

卒業生を窓口とした海外からの団体研修受け入れ、多くの研修生が来日した。また、提携校との交流も再開された。

⑥ 広報活動の強化

広報委員会を中心にホームページの情報更新の頻度を上げた。

留学生向けの会場ガイダンスに参加し同時に内部進学強化に努めた結果、多くの学生を集めることができた。

⑦ 新たな将来計画の立案と実行

前年度からの継続計画となっていた中小企業診断士登録養成課程は、令和7年3月に開設することができ、学生の受け入れを始めた。

また、引き続き、100周年を前に、記念同窓会等のイベント開催の準備を進めた。

(2)ハリウッド美容専門学校

① 教育の質の保証・教育研究力の向上

教育の質の保証・教育研究力の向上のため、教員は定期的に校内研修をおこなった。

学生に関しては、コロナ以前と同じく1泊2日で清里研修旅行も行うなど、計画どおり年間スケジュールをこなすことができた。

本学園最大のイベントであるファッション&ビューティショーを当年度は3月におこなった。創立100周年を記念した内容のショーは、準備期間の短さにも関わらず、観客による人気投票・アンケートで高評価を得た。

学外コンテストも、昨年度に引き続き、全国理容美容学生技術大会東京地区大会では、ワイ

ンディング部門で金賞を受賞した。また、全国美容週間マスターズカップでは、ワインディング部門で、優秀賞を受賞するなどの活躍をした。

② キャリア開発・支援

東京都が実施する再就職支援事業である「専門人材育成訓練」事業を当年度も受託し、第5期生を受け入れた。第4期生と第5期生をあわせて50人超となる。また就職支援が必要な第3期生が3月で訓練を修了している。キャリアセンターでは、その事務手続きとともに学生支援をおこなった。

③ 地域連携

港区の公立中学生のインターンシップの受け入れをおこなった。

ボランティア関連では、毎年校内で献血を行っており、当年度も6月、12月の2回実施した。

ロータリークラブとの連携で、これまで高度専門課程の学生を中心に高齢者施設で美容ボランティアを行ってきたが、これは前年度に引き続き中止となった。

④ 国際化

新型コロナの流行が終わり、当年度秋以降は留学生の入学希望者が急増した。国際交流センターを中心に手続きを進め、次年度は過去最多の留学生が入学する予定である。

文部科学省が職業実践専門課程を対象にした、「専修学校の専門課程における外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の認定を開始したため、申請をおこない、3月末に高度専門課程が認定された。

⑤ コンテスト実績等

4月の校内コンテストにより選手選抜をおこない、9月の全国理容美容学生技術大会東京地区大会に参加した。成績は下記のとおりである。

◎全国理容美容学生技術大会東京地区大会

ワインディング部門、2位優秀賞、8位敢闘賞、9位敢闘賞

◎全国理容美容学生技術大会

ワインディング部門で優勝

本大会においてワインディング部門で2位、3位、ヘアデザイン画部門で5位、9位となり全国大会の出場権を獲得した。

◎全国美容週間マスターズカップ 2024

ワインディング部門：優秀賞

⑥ 広報活動の強化

会場及び高校ガイダンスへの参加、高校訪問をおこなった。毎週末には、対面とオンラインを併用しつつ、オープンキャンパスや個別相談会を開催するとともに、平日の授業見学会も実施した。

⑦ その他

- 4月 清里研修旅行（1年生）
- 4月 就職ガイダンス（外部合同説明会）
- 4月 校内コンテスト
- 7月 献血
- 7月 トータルビューティコンテスト
- 8月 美容師国家試験（実技）
- 9月 美容師国家試験（学科）
- 11月 明治神宮参詣
- 12月 献血
- 2月 美容師国家試験（実技）
- 3月 美容師国家試験（学科）
- 3月 清里卒業旅行（2年生）
- 3月 ハリウッドファッション&ビューティショー

2. 教育研究の概要

(1)教育研究上の基本となる組織に関する情報

ハリウッド大学院大学
ビューティビジネス研究科（専門職）
ビューティビジネス専攻（2年コース 2年制）
ビューティビジネス専攻（1年コース 1年制）

ハリウッド美容専門学校
美容総合専門課程
高度総合美容学科（4年制）
総合美容学科
ヘアメイクコース（2年制）
トータルビューティコース（2年制）
ファッションビューティコース（2年制）
コスメビューティコース（2年制）
ビューティキャリアコース（1年制）
通信課程
美容師通信教育コース（3年制）

(2)教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報（令和6年5月1日）

大学等	研究科等	教員数
ハリウッド大学院大学	ビューティビジネス研究科	29 人
【教員の保有学位または職務上の実績等】		
博士号保有者 5 人		
実務家教員 12 人		
ハリウッド美容専門学校	—	21 人

(3) 学生に関する情報（令和6年度）

① 入学者数等の推移

ハリウッド大学院大学 ビューティビジネス研究科				
入学時期	入学定員※1	出願者数	合格者数	入学者数
令和3年4月	25人	26人	26人	22人
令和3年10月	15人	8人	8人	8人
令和4年4月	25人	28人	23人	22人
令和4年10月	15人	7人	6人	5人
令和5年4月	25人	22人	21人	16人（研1）※2
令和5年10月	15人	7人	6人	5人（研1）
令和6年4月	25人	35人	32人	29人（研1）
令和6年10月	15人	10人	8人	8人
令和7年4月	25人	100人	62人	57人

※1 大学院の入学定員は、単年度で40人であり、上記入学定員の配分は目安である。

※2 括弧内は研究生の数で外数。

大学のアドミッションポリシー（入学者受入方針）

ハリウッド大学院大学では、次のような学生を求めています。

- ①ビューティサロン経営に従事し、その知識や技術に加えて高度な経営理論を習得し、新しいビジネスモデルに基づく専門経営者・管理者として独立を希望する社会人
- ②化粧品等ビューティビジネス関連業界においてその経営の高度化を推進し、管理者・ビジネスリーダーとなる志をもつ社会人
- ③ビューティビジネス業界での学術経験がなくとも成長産業としてのビューティビジネスに注目し、その後継者・管理者およびベンチャービジネスとして新規参入を目指す人
- ④ビューティビジネスの教育機関等において教育者・指導者としての専門教員を志す人

※大学卒業歴のない場合でも、大学と同等以上の学力があるか否かの「学力認定試験」を事前実施して門戸を開いております。

ハリウッド美容専門学校				
入学年月	入学定員	出願者数	合格者数	入学者数
令和3年4月	680人	278人	270人	252人
令和3年10月	—	0人	0人	0人
令和4年4月	680人	135人	132人	128人
令和4年10月	—	13人	13人	13人
令和5年4月	680人	202人	196人	185人
令和5年10月	—	5人	4人	4人
令和6年4月	640人	501人	463人	412人
令和6年10月	—	7人	7人	—
令和7年4月	640人	460人	458人	456人

② 卒業後の進路（令和6年度）

学校	卒業者数	就職者数			その他（進学等）	
		美容分野 に就職	その他 分野	就職率	その他（進学 等）数	その他（進学等）率
ハリウッド大学院大学	30 人	3 人	9 人	40.0%	18 人※1	60.0%
ハリウッド美容専門学校	107 人※2	76 人	0 人	71%	31 人	29.0%

※1 留学生の帰国者を含む。

※2 就労出来ない留学生を除く。

大学のディプロマポリシー（学位授与方針）

本学は以下のような能力を身につけ、ビューティビジネスの発展に貢献できる実務実践性が認められた学生で、かつ所定の単位を修得した学生に過程の修了を認定しています。

- ①ビューティビジネスの本質であるホスピタリティマインドの実践と近代的な経営理論を実践し得る能力。
- ②ビューティビジネスを構成する精神美・健康美・容姿美・服飾美・生活美・環境美についての深い理解力。
- ③ビューティビジネス・産業に関して専門的知識を持つとともに、ビューティビジネスの経営について実証的・体系的に考察しそれを実践し得る能力。
- ④ビューティビジネスの専門職業人に必要とされる知識、および技術者を評価し得る能力。
- ⑥ ビューティビジネスの養成機関における優れた教育能力・指導力。

③ 退学者数等（令和6年度）

	退学	除籍
ハリウッド大学院大学	3 人	0 人
ハリウッド美容専門学校	69 人※	2 人

(4) 教育課程に関する情報

ハリウッド大学院大学ではディプロマポリシーに掲げた能力を育成するため、下記のカリキュラムポリシーを定めている。

大学のカリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学は、ビューティビジネスの特性を理論的に分析理解し、かつ高度な経営理論を実践できる専門性の高い経営能力を獲得するため、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- ①産業界と大学院との産学協同による「理論と実践の有機的結合」に留意し、「経営系」と「技能系」の両面から科目を配置。
- ②各学生が関心ある科目を修了後の進路に合わせて幅広く学習し、また研究課題を深められるよう、研究者教員と実務家教員が協働してカリキュラムを編成し、連携した履修指導を実施。
- ③ビューティビジネス分野の未履修者や留学生の専門科目学修を支援するために前提基礎科目を開講。
- ④知識を広げ理解を深めるため、基礎科目、発展科目、実践科目および段階的な科目を配置。

⑤ビューティビジネスに関わる技術者を評価する能力を持った専門経営者を養成するために、テクノロジー科目を開講。

⑦ 学修の成果を判定するため、修了要件となる必修科目として「プロジェクト成果報告」を開講。

カリキュラムポリシーに基づき編成した当年度の設定科目は次表の通りである。

令和 6(2024)年度 教育課程等の概要

科目区分	授業科目の名称	教員名 (◎専任,○兼任)	曜日・時限		配当年次	単位数		授業形態		
			春	秋		必修	選択	講義	演習	実習
サービスビジネス基礎科目	産業経済社会発展論	◎熊村 T○白石		金 7	1, 2		2	○	○	
	サービス産業成長論	◎熊村 T○白石	金 7		1, 2		2	○	○	
	ヒューマンサービス経営学	◎寺本◎清家	火 4・5		1, 2	2		○	○	
	経営理念戦略論	◎寺本◎高山◎外山		火 4・5	1, 2		2	○	○	
	サービスマーケティング論	◎相原◎外山		木 5	1, 2		2	○	○	
	経営学(前提)	◎清家◎外山	木 6		1, 2		2	○	○	
	計		3	3						
トータルビューティライフ科目	ビューティ文化論	◎牛山○岡崎 T○佐藤 Y	水 6		1, 2	2		○	○	
	ビューティ美学	○福地◎中川○佐藤 Y	水 5		1, 2		2	○	○	
	リーダーシップ論	◎佐藤 A○青木		金 5	1, 2		2	○	○	
	日本文化リテラシー	◎蓑地◎佐藤 K◎光江○岡崎 T	火 3・木 4	火 3・木 4	1, 2		2	○	○	
	計		3	2						
トータルビューティ・マネジメント発展科目	ビューティビジネス経営論	◎山中○野嶋		水 6	1, 2	2		○	○	
	創業・承継・再生経営論	○横澤○田中○徳久		水 7	1, 2		2	○	○	
	革新的経営者論	○横澤○金子○林	金 5		1, 2		2	○	○	
	企業経営診断論	◎佐々木○徳久		木 6	1, 2		2	○	○	
	キャリア能力開発論	◎蓑地○川口○三浦 K○横山	木 7		1, 2		2	○	○	
	財務会計管理論	○田井		火 7	1, 2		2	○	○	
	デジタルマーケティング論	○熊村 G	金 6		1, 2		2	○	○	
	デジタルマーケティング実務	○熊村 G		金 6	1, 2		2	○	○	

	経営情報システム論	○田中 G	火 7		1, 2		2	○	○	
	簿記論(前提)	○田井	火 6		1, 2		2	○	○	
	計		5	5						
スキル・ビューティ ビジネス発展科目	トータルビューティ スキル論	◎渡邊○津久間○岡崎 R○木村	水 7		1, 2	2		○	○	
	ビューティサロンビ ジネス論	○千葉		木 7	1, 2		2	○	○	
	コスメティックビジネ ス論	◎黒野◎中川 j○瀧野 ○南部○若林	木 5		1, 2		2	○	○	
	ファッションビジネス 論	○尾原○青木○篠原○ 布矢		水 5	1, 2		2	○	○	
	ヘルスケアビジネス 論	○上馬場○川本○三浦 M◎外山		火 6	1, 2		2	○	○	
	計		2	3						
プロジェクト 科目群	プロジェクト研究	◎寺本◎川島◎中川◎ 養地	火 4・5	火 4・5	1	2		○	○	
	プロジェクト成果報 告	担当教員			1, 2	2		○	○	
	計		1	1						
合計			14	14	28科目					

(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	研究科等	修業 年限	必要修得 単位数	科目区分ごとの修得単位数			取得可能な学位及 び専攻名称
				必修	選択	自由	
ハリウッド大 学院大学	ビューティビ ジネス研究科	2 年	30 単位	12 単位 ※	18 単位	－単位	ビューティビジネ ス修士（専門職）

※必修科目のうち 4 単位は学修の集大成となる「プロジェクト成果報告」であり、本科目の成否をもって課程修了判定を行う。

各科目の評価は、100 点満点で評価点数を算出し、これを下表のとおり段階に換算する。S～C を合格、D を不合格とし、合格者に単位を付与する。

段階	評価点数	グレード・ポイント
S	90 点以上	4.0
A	80～89 点	3.0
B	70～79 点	2.0
C	60～69 点	1.0
D	59 点以下	0.0

(6)学習環境に関する事項

①ハリウッド大学院大学

施設面：

教室	10F	104 号室	105 号室	106 号室
学生研究室	10F	107 号室		
図書室、書庫	11F			
保健室	11F	108 号室		
事務室	11F			
教員研究室	10F	107 号室、11F		
会議室	12F			
トータルメディカルビューティ研究所		ハリウッドハウス	2F	

②ハリウッド美容専門学校

施設面：

教室	7F ～10F
教職員事務室	11F
保健室	11F
図書室、書庫	11F
ホール	5F
実習サロン	ハリウッドハウス 1F
	10F 101 号室 102 号室

(7) 学生納付金に関する情報（令和 6 年度）

①ハリウッド大学院大学

所属区分 納付金区分	ハリウッド大学院大学	
	ビューティビジネス研究科 ビューティビジネス専攻（2 年）	ビューティビジネス研究科 ビューティビジネス専攻（1 年）
入学金	200,000 円	200,000 円
授業料	800,000 円	1,680,000 円
その他費用	492,000 円	624,000 円
年間合計	1,532,000 円	2,504,000 円
入学検定料	30,000 円	30,000 円

②ハリウッド美容専門学校

所属区分 納付金区分	ハリウッド美容専門学校	
	美容総合専門課程	
	高度総合美容学科（4 年制） （1、2 年次は総合美容学科と同額）	総合美容学科 ヘアメイクコース（2 年制）
入学金	（3 年次外部編入のみ）200,000 円	200,000 円
授業料	500,000 円	600,000 円
その他費用	400,000 円	740,000 円
年間合計	1,100,000 円	1,540,000 円
入学検定料	30,000 円	30,000 円

所属区分 納付金区分	ハリウッド美容専門学校	
	美容総合専門課程	
	総合美容学科 コスメビューティコース（2 年制）	総合美容学科 ビューティキャリアコース（1 年制）
入学金	200,000 円	150,000 円
授業料	600,000 円	280,000 円
その他費用	740,000 円	330,000 円
年間合計	1,540,000 円	760,000 円
入学検定料	30,000 円	30,000 円

所属区分 納付金区分	ハリウッド美容専門学校	
	通信課程	
	美容師通信教育コース※	認定エステティシャンコース
入学金	50,000 円	50,000 円
授業料	100,000 円	100,000 円
その他費用	130,000 円	130,000 円
年間合計	280,000 円	280,000 円
入学検定料	30,000 円	30,000 円

※美容師通信教育コースで、美容室に従事していない学生は、必要授業時間が増えるため、上記に追加授業料（年間 50,000 円）が発生する。

(8) 学生支援に関する情報

①学園共通

支援項目	支援組織・窓口	内容
就職・進路選択支援	生涯キャリア開発センター 国際交流センター（留学生）	就職相談、紹介、書類作成・面接指導
生活支援(アルバイト等)	生涯キャリア開発センター	紹介
生活支援(住居等)	入学相談室、国際交流センター	宿舍紹介
留学生支援	国際交流センター	生活相談、就職相談・紹介、在留手続き等の各種手続き支援

②ハリウッド大学院大学

支援項目	支援組織・窓口	内容
履修支援	学生委員会	履修相談
心身の健康に関する支援	学生委員会、保健室	各種相談、病院紹介
修学支援	学生委員会、事務局	各種相談、奨学金紹介等

③ハリウッド美容専門学校

支援項目	支援組織・窓口	内容
心身の健康等に関する支援	学生相談室	相談事全般

(9) 奨学金に関する情報（令和 6 年度）

①ハリウッド大学院大学

奨学金の名称	給付・貸与の別	受給学生数	備考
日本学生支援機構第 1 種奨学金	貸与	0 人	無利子
日本学生支援機構第 2 種奨学金	貸与	0 人	有利子
ハリーウシヤマ奨学金 (私費留学生支援奨学金)	給付	0 人	学費免除、減額

②ハリウッド美容専門学校

奨学金の名称	給付・貸与の別	受給学生数	備考
日本学生支援機構第 1 種奨学金※	給付	33 人	
日本学生支援機構第 1 種奨学金	貸与	18 人	無利子
日本学生支援機構第 2 種奨学金	貸与	23 人	有利子
文部科学省外国人留学生奨学金（国費）	給付	1 人	
文部科学省外国人留学生学習奨励費	給付	2 人	
ハリーウシヤマ奨学金	給付	112 人	学費免除、減額

※高等教育の修学支援新制度の対象者を含む

(10) 科学研究費補助金・受託事業等

① ハリウッド大学院大学

なし

②ハリウッド美容専門学校

	件数	備考
文部科学省「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」	1 件	
東京都「専門人材育成訓練」受託事業 ※3	4 件	

※3 訓練2年、定着支援1年の3年間の事業。

当年度は訓練事業3件（ヘアメイクの1年目、2年目とコスメ1年目）と定着支援事業1件（ヘアメイク）を受託している。

III. 財務の概要

1. 令和6年度収支決算状況

(1) 資金収支計算書総括表（自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日）

(収入の部)

(単位 千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	811,350	810,568	782
手数料収入	30,755	30,966	△211
寄付金収入	0	0	0
補助金収入	50,685	50,684	1
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	86,220	86,228	△8
受取利息・配当金収入	1,450	1,453	△3
雑収入	48,940	48,375	565
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	401,140	401,398	△258
その他の収入	241,663	241,708	△45
資金収入調整勘定	△548,233	△548,560	327
前年度繰越支払資金	1,390,188	1,390,188	
収入の部合計	2,514,157	2,513,008	1,150

(支出の部)

(単位 千円)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	341,174	341,660	△486
教育研究経費支出	382,809	381,795	1,014
管理経費支出	300,939	299,661	1,278
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	5,200	5,354	△154
設備関係支出	1,688	1,402	286
資産運用支出	28,500	28,463	37
その他の支出	7,499	7,490	9
資金支出調整勘定	△5,400	△5,404	4
翌年度繰越支払資金	1,451,748	1,452,586	△838
資金支出の部合計	2,514,157	2,513,008	1,150

(2) 事業活動収支計算書総括表 (自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日)

(単位 千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	811,350	810,568	782
		手数料	30,755	30,966	△211
		寄附金	0	0	0
		経常費等補助金	50,055	50,055	0
		付随事業収入	86,220	86,228	△8
		雑収入	48,940	48,375	565
		教育活動収入計	1,027,320	1,026,191	1,129
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		人件費	341,174	340,804	370
		教育研究経費	423,829	422,806	1,023
		管理経費	302,009	300,726	1,283
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	1,067,012	1,064,336	2,676
教育活動収支差額		△39,692	△38,145	△1,547	
教育活動外収支	の部 事業活動収入	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	1,450	1,453	△3
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	1,450	1,453	△3
	活動 事業	科目	予算	決算	差異
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		1,450	1,453	△3
経常収支差額			△38,242	△36,692	△1,550
特別収支	の部 事業活動収入	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	630	629	1
		特別収入計	630	629	1
	の部 事業活動支出	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	10,000	10,000	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	10,000	10,000	0
	特別収支差額		△9,370	△9,371	1
基本金組入前当年度収支差額			△47,612	△46,063	△1,549
基本金組入額合計			0	0	0
当年度収支差額			△47,612	△46,063	△1,549
前年度繰越収支差額			6,395	6,395	0
基本金取崩額			6,480	3,244	3,236
翌年度繰越収支差額			△34,737	△36,424	1,687

(参考)

事業活動収入計	1, 029, 400	1, 028, 273	1, 127
事業活動支出計	1, 077, 012	1, 074, 336	2, 676

(3)貸借対照表総括表（令和7年3月31日 現在）

（資産の部）

（単位 千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	3, 634, 187	3, 651, 043	△16, 856
有形固定資産	2, 629, 366	2, 664, 685	△35, 319
特定資産	50, 000	50, 000	0
その他の固定資産	954, 821	936, 358	18, 463
流動資産	1, 650, 272	1, 625, 319	24, 954
資産の部合計	5, 284, 459	5, 276, 362	8, 097

（負債の部）

（単位 千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	50, 290	51, 145	△3, 244
流動負債	485, 527	430, 512	55, 016
負債の部合計	535, 817	481, 657	54, 160

（純資産の部）

（単位 千円）

基本金	4, 785, 066	4, 788, 310	△856
繰越収支差額	△36, 424	6, 395	△42, 819
純資産の部合計	4, 748, 643	4, 794, 705	△46, 063
負債・基本金・消費収支差額の部合計	5, 284, 459	5, 276, 362	8, 097

※上記表は全て千円未満を四捨五入しているので合計金額等が一致しない場合がある。

2. 財務比率等

	財務比率	計算式	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	39.25%	39.33%	33.25%
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	54.60%	54.38%	42.15%
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	54.19%	51.91%	37.15%
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	25.32%	27.53%	29.16%
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.00%	0.00%	0.00%
6	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入れ額}}$	120.01% 1	121.47%	103.72%
7	学生生徒納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	71.90%	72.31%	78.88%
8	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	8.27%	8.31%	4.94%
9	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	8.13%	7.75%	4.87%
10	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	5.74%	4.93%	0.10%
11	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△18.77%	△18.77%	△3.57%
12	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△18.78%	△18.78%	△3.72%
13	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	70.26%	69.20%	68.77%
14	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	51.52%	50.50%	49.76%
15	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	0.96%	0.95%	0.95%
16	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	29.74%	30.80%	31.23%
17	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債 + 純資産}}$	0.94%	0.97%	0.95%
18	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債 + 純資産}}$	4.52%	8.16%	9.19%
19	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債 + 純資産}}$	91.40%	90.87%	89.86%

20	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	3.14%	0.12%	△0.69%
21	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	76.87%	76.15%	76.53%
22	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	73.58%	75.34%	75.73%
23	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	657.63%	377.53%	339.89%
24	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	5.46%	9.13%	10.14%
25	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	5.77%	10.05%	11.28%
26	前受金保有比率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	662.79%	373.97%	361.88%
27	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100%	100%	100%
28	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	81.87%	83.04%	82.76%

3. 令和6年度の学校法人メイ・ウシヤマ学園の財務状況について

(1) 資金収支計算書

- ① 収入の部のうち「学生生徒等納付金収入」は前年度より 268,471 千円増、前年度比 49.5%増の 810,568 千円であった。これは主にビューティキャリアコースの学生増による。
- ② 収入の部のうち「手数料収入」は前年度より 12,100 千円増、前年度比 64.1%増の 30,966 千円となっており、これは専門学校及び大学の受験者数が大幅に増加したことによる。
- ③ 収入の部のうち「寄付金収入」は前年度より 580 千円減の 0 円であった。
- ④ 収入の部のうち「補助金収入」は前年度より 11,993 千円減の 50,684 千円であった。専門学校の教育環境整備費補助金の対象事業が小規模だったことと、大学の補助金減少による。
- ⑤ 収入の部のうち「付随事業・収益事業収入」は前年度より 14,729 千円減の 86,228 千円であった。主に専門人材育成訓練事業の縮小による。
- ⑥ 収入の部のうち「雑収入」は前年度より 19,740 千円増の 48,375 千円であった。これは施設設備利用料収入の増加等による。
- ⑦ 収入の部のうち「前受金収入」は翌年度の入学者が増えたことにより、前年度より 29,665 千円増の 401,398 千円であった。
- ⑧ ①から⑦の結果、「教育活動資金収入計」は 1,026,191 千円となっており、前年度より 276,719 千円の増加となった。
- ⑨ 支出の部のうち「人件費支出」は前年度より 49,188 千円増の 341,660 千円となっており実習サロンのスタッフ拡充等、教職員数の増加による。

- ⑩ 支出の部のうち「教育研究費支出」は前年度より 23,891 千円増の 381,795 千円となっており、学生数増加による。
- ⑪ 支出の部のうち「管理経費支出」は前年度より 94,000 千円増の 299,661 千円となったが、主に専門学校の委託報酬手数料の増加による。
- ⑫ 支出の部のうち「資産運用支出」は前年度より 18,921 千円増の 28,463 千円となったが、有価証券購入による。
- ⑬ ⑨から⑪の結果、「教育活動資金支出計」は前年度より 179,005 千円増の 1,023,116 千円となった。
- ⑭ ⑧の「教育活動資金収入計」と⑫の「教育活動資金支出計」の差引は 3,075 千円のプラスであり、調整後の「教育活動資金収支差額」も 73,397 千円とプラスになった。

(2) 事業活動収支計算書（資金収支計算書と共通の項目を含まない。）

- ⑮ 「事業活動収入計」は前年度より 276,603 千円増の 1,026,191 千円である。
- ⑯ 「事業活動支出計」は前年度より 173,999 千円増の 1,064,336 千円である。
- ⑰ 「経常収支差額」は 38,145 千円のマイナスであるが、前年度より 102,605 千円改善している。「事業活動支出計」には非資金性の「減価償却額」42,075 千円が含まれているため、⑭にあるとおり、実質的な経常収支はプラスとなった。

(3) 貸借対照表

- ⑱ 「有形固定資産」は前年度より 35,319 千円減少した。主として建物の減価償却による。
- ⑲ 「流動資産」は前年度より 24,954 千円増加した。主として現金預金の増加による。
- ⑳ 「資産の部合計」は上記の結果 8,097 千円の増加となった。
- ㉑ 「固定負債」は前年度比 3,244 千円の減少となった。
- ㉒ 「流動負債」は前年度より 55,016 千円増となったが、主として前受金の増加による。
- ㉓ 上記の結果、「純資産の部合計」は 46,063 千円の減少となった。

(4) 財務比率等

- ㉔ 一般的に 50～60%の範囲であれば健全とみなされ、低い値が良いとされる「人件費比率」は人件費増にもかかわらず経常収入が伸びたため、33.25%と前年度より 6 ポイント低下し、極めて低水準である。
- ㉕ 高い方が良いとされる教育研究経費比率は経常収入が伸びたため、昨年とより 12 ポイント低下したが、42.15%は高水準である。
- ㉖ 低い方が良いとされる借入金等利息比率は前年度に引き続き 0.00%であり、無借金経営が続いている。
- ㉗ 高い方が良いとされる流動資産構成比率は 31.23%と昨年度と同等の水準である。
- ㉘ 低い方が良いとされる固定負債構成比率は 0.95%であり、総負債比率も 10.14%と依然低水準で維持されており、健全な財務状況である。